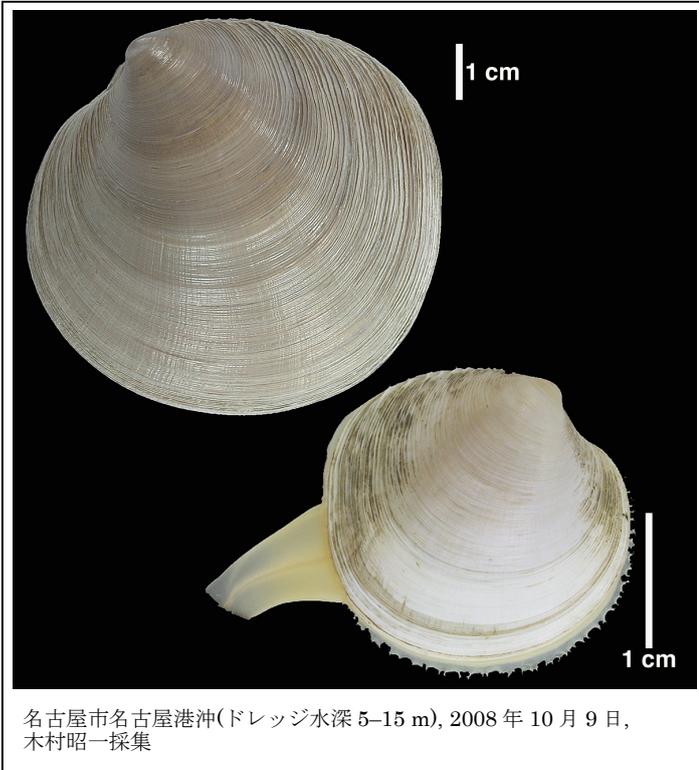


ウラカガミ *Dosinia corrugata* (Reeve)

【選定理由】

本種は陸奥湾から九州の内湾の砂泥底から記録されていたが、近年分布全域で稀な種になっていて、東京湾では絶滅したらしい(和田・他, 1996)。1960年代には衣浦湾(知多湾奥)などの内湾奥で新鮮な死殻が採集されていたが、衣浦湾の生息地は埋め立てられ絶滅した(原田一夫氏私信)。近年生貝が確認、報告されたのは、2008年に名古屋港沖の水深5-10 mのシルト泥底で採集された2個体の1例のみである(木村, 2012)。2009年には名古屋港沖(水深5-15 m)で合弁の死殻が比較的多く採集された(木村, 2010)が、2016年の調査では合弁死殻は全く採集されず、死殻の個体数も非常に少なかった。現在県内では古い死殻が稀に採集される程度で、危機的な生息状況である。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



【形態】

殻長約6 cm、殻はやや角張った円形で殻質は厚いが、膨らみは弱い。殻は淡褐色から白色で、殻表には密な輪肋がある。近似種の *D. japonica* カガミガイとは殻の膨らみが弱く、外形が角張った円形であることで区別される。

【分布の概要】

【県内の分布】

死殻も稀で、近年生息が確認できない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。陸奥湾から九州に分布するとされるが、近年の生息記録はない。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。現在死殻さえほとんど採集されず、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

本種はレッドデータブックなごや2004(木村, 2004)では名古屋港沖の本種が図示されていたが、レッドデータブックなごや2015(木村 加筆 川瀬, 2015)では韓国産の標本が図示された。その地で採集された貝類の画像はレッドデータブックの重要な資料(データ)の一つなので、他産地の標本はなるべく使用しないことが望ましい。ましてや、本種は韓国産と日本産とでは殻形態に相違があり掲載するべきではない。

【引用文献】

- 木村昭一, 2010. ウラカガミ, p. 199. in: レッドデータブックなごや2010(2004年版補遺), 316pp. 名古屋市環境局.  
木村昭一, 2012. ウラカガミ, p. 149. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
木村昭一 加筆 川瀬基弘, 2015. ウラカガミ, p. 413. in: レッドデータブックなごや2015 動物編, 503pp. 名古屋市環境局.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)